

## 第 105 回 (2022 年 1 月度) 監査技術ゼミ 結果報告

運営委員長 菊谷 純  
(文責: 松下 洋二)

1. 開催日時 2022 年 1 月 31 日(月) 午後 2 時 00 分～午後 5 時 00 分
2. 開催方法・場所 ZOOM を利用したオンライン会議方式  
講師は事務所より解説  
司会(委員長)は自宅より進行  
委員は自宅または職場にて参加およびオンライン会議のサポート
3. テーマ “経営と現場との断絶”を克服する内部統制の構築に監査役はどう関わるか?
4. 講師 プロアクト法律事務所 弁護士/公認不正検査士 竹内 朗氏
5. 出席者 69 名
6. 配布資料 (事前に参加予定者にメールで送付)
  - ① 第 105 回監査技術ゼミ資料「“経営と現場との断絶”を克服する内部統制の構築に監査役はどう関わるか?」
  - ② 参考資料 1 「(三菱電機)ガバナンスレビュー委員会報告書ー役員経営責任の検証及び評価ー(開示版)抜粋」ガバナンスレビュー委員会山口利昭、内藤順也、木内敬 2021 年 12 月 23 日
  - ③ 参考資料 2 「企業不祥事の事例分析ー三菱自動車工業燃費不正問題ー」  
月刊監査役 2017 年 1 月号所収 竹内 朗
  - ④ 参考資料 3 「上場企業における不祥事予防のプリンシプル」  
日本取引所自主規制法人 2018 年 3 月 30 日
  - ⑤ 参考資料 4 「不祥事の対外公表を避けながら、社員に再発防止を徹底できるか?」  
Proact's View 5 November 2021 Vol.1 竹内 朗

### 7. 議事次第

#### 1) 運営委員長より開会の挨拶

菊谷運営委員長よりオンライン参加者の ZOOM 接続状況を確認したのち、開会挨拶と本日のテーマ紹介を行い、講師の竹内朗氏を紹介された。

なお出席者の内、旧独立委員会セミナーも含めて当ゼミへの初参加者は以下の通り。

|             |       |         |
|-------------|-------|---------|
| 稲畑産業(株)     | 元監査役  | 森本 親治 氏 |
| 東京パワーテクノロジー | 常任監査役 | 北畠 尚史 氏 |

#### 2) 講義および質疑応答

午後 2 時 5 分より 2 時 57 分まで、講師から資料(P16 まで)および参考資料 1、2、3 に従い、主に品質不正問題の実例についてについて丁寧な解説がされ、引き続き講義内容に対する質疑応答を 3 時 19 分まで行った。

#### 3) 提示された論点に意見交換等

質疑応答の後、10 分間の休憩を挟んで、午後 3 時 30 分から前半の質疑応答を継続したのち、午後 3 時 43 分から、講師があらかじめ用意された 3 つの論点について講師から解説がなされた後、会員会友と意見交換が行われた。

前半の質疑応答ならびに後半の意見交換の質疑や意見は以下の通り。

<質疑応答>

- ・品質不正事件が違法ではないというのは刑事罰がないからか。そうだとすると債務不履行の問題ではないか。
- ・監査役としてどのような監査を行うべきか
- ・会社の危機として認識できていたのか
- ・2000 年代の成果主義・能力主義への転換と品質不正問題の関連

・M自動車で起きたリコール隠し（2000 年、2004 年）と燃費不正の関係は？  
<3 つの論点における意見交換>

- ・子会社監査役の限界
- ・第2線のディフェンスには限界。第2線の役割は第1線支援といいながら、メッセージ機能だけで現場への押し付け。第1線ディフェンスこそ重要
- ・収益目標だけ現場に下して、あとは任せたという風潮
- ・実態経験として、3線（内部監査）は1線を見ていた。監査役は1-2-3線全てを見ていた。
- ・顧客のことを忘れているのが問題。不正をさせないことが監査役の仕事。
- ・「トクサイ」はまだ多くあるのではないか
- ・コンプライアンス教育の方法
- ・発見統制の有効な方法

#### 4) 委員長より閉会の挨拶

質疑応答の後、菊谷運営委員長が講師に感謝の意を表されるとともに、参加者に対しアンケートへの協力要請を行う（後日メールで発信）とともに、次回の監査技術ゼミは来月2月18日に開催予定の旨案内した後、閉会となった。

以上